

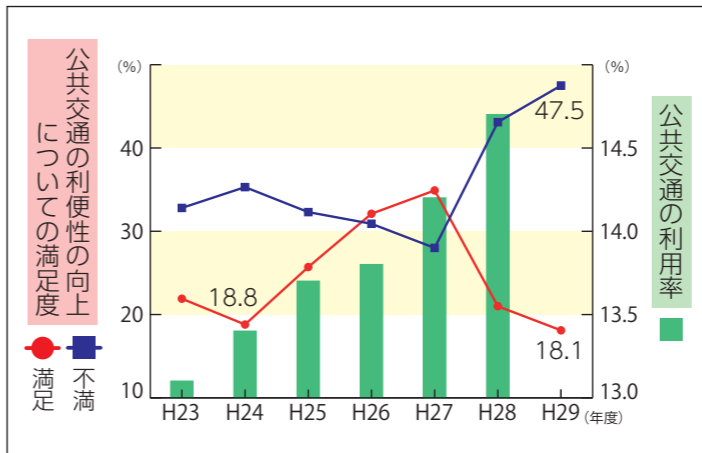
変わる公共交通

お問い合わせ
交通政策課 ☎839・2138

モビリティ・マネジメント 編



本市では、人口減少・少子超高齢社会の到来による公共交通の衰退を防ぐため、鉄道を基軸としたバス路線の再編に取り組んでいます。市民の足である公共交通を将来にわたって維持するためには、皆さんに可能な限り公共交通を利用してもらうことが必要となります。



不満足No.1

本市では、まちづくりに関する皆さんの意見を市政運営に反映させるため、総合計画に掲げる60の施策ごとの満足度を毎年度調査しています。このうち「公共交通の利便性の向上」については、公共交通の利用率が増加しているにも関わらず、満足度は平成28年度から大幅に下落し、昨年度は、過去最低を更新しました。(上グラフ参照)

なぜこのような結果に

要因の一つには、高齢者の自動車による交通事故が社会問題化され、

これまで公共交通を利用していなかった人たちが、利用することを意識し始めた結果ではないかと考えられます。

公共交通は、大勢の人が利用する乗り物です。マイカーと違い、利用者が乗り物に合わせる必要がある中で、駅が近くにならないことや時間が限られていることに不便さを感じます。

しかし、その不便さを嫌い、利用者が減ることで、公共交通が無くなってしまったらどうなるでしょう。このように皆さんが思い描く公共交通の理想と現実との「ギャップ」を埋めていくことが必要と考えています。

そこで、本市の公共交通に関する施策や、公共交通が果たすべき役割

を理解してもらうため、モビリティ・マネジメントに取り組みます。

モビリティ・マネジメント

一人一人の移動(モビリティ)が社会にも個人にもいい影響を与えるよう、コミュニケーションをとりながら考えていく取り組みのことを、モビリティ・マネジメントと言います。

現在、多くの地域で公共交通が疲弊し、廃線になったりしています。このような中、本市における公共交通は、今後、どのような状況に置かれるのか。また、公共交通を利用することで得られるメリットは何か。このようなさまざまな疑問について、適切な情報を提供し、公共交通への関心を持ってもらい、利用してもらうきっかけづくりを進めています。

市民の皆さんに「今日は公共交通を使って出かけてみようかな」と、できることから、行動してもらうことが狙いです。



例えばこんなモビリティ・マネジメント

小学生を対象にした

モビリティ・マネジメント

バスに乗らない理由としてよく聞かれるのが、「乗り方が分からない」という声です。このため、昨年度から小学生を対象に、国土交通省が行うパリアフリー教室と併せて、バスの乗り方教室を開催しています。

この教室では、ことでんバスの協力の下、まちを走るホンモノの車両を使い、乗車体験を行っています。市内を走る路線バスは、後ろのド

アから乗車し、前から降車することや、ICカードの使い方などについて、実際に体験することで、バス利用への抵抗感を減らすことができています。



地域を対象にした

モビリティ・マネジメント

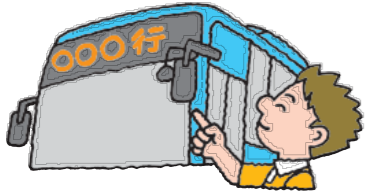
市の職員が地域に出向き、参加者と対話を通じて、本市の公共交通に関する取り組みや今後の公共交通の在り方を説明する「市政出前ふれあいトーク」を開催しています。

このふれあいトークを活用することで、地域の悩みや課題を解消するヒントになるかもしれません。



バスの乗り方

①行き先表示を確認



②後ろのドアから乗る



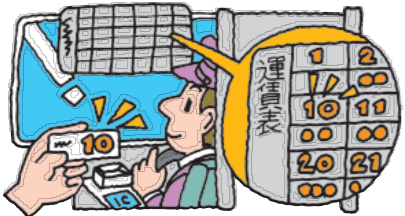
③IruCaカードをタッチ！
(もしくは整理券を取る。)



④降りたいバス停が来たら、降車ボタンを押す



⑤運賃表示版で運賃を確認して支払う



⑥前のドアから降りる



～市政出前ふれあいトーク～

公共交通について一緒に考えてみませんか？

交通政策課では、交通政策や公共交通について市政出前ふれあいトークを行っています。

- テーマ ●高松市の公共交通の考え方 ●現在行っている施策 ●地域でのバスの走らせ方
- 対象者 市内に在住か通勤・通学している人で、20人程度の参加が見込める団体など
- 実施時間 午前10時～午後9時の間 (1時間～1時間30分程度)
- 実施場所 市内 ※申込団体で用意してください。
- 申込方法 実施希望日の2週間前までに、申込書に希望するテーマなどを記入して、電話かファクスか直接、交通政策課(市役所4階 ☎839・2138 FAX839・2125)か広聴広報課 市民相談コーナー(市役所1階 ☎839・2111 FAX839・2464)へ。
※その他のテーマについては、広聴広報課 市民相談コーナーへ申し込んでください。